

令和5年度小松市立丸内中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間）	取組の成果と課題（年度末）
生徒指導	<p><発達支持的生徒指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性、よりよい人間関係を築く能力を育成する。 互いを認め合える集団を育成する。安心して発言できる親和的学級づくりを目指す。 安全安心な登下校のための交通ルール、マナーの定着。特に、自転車通学における一時停止徹底の指導に重点を置く。 ネットトラブルの危険性の啓発 	<p>○より良い人間関係、親和的な学級づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任の先生を中心に、普段から生徒と話す機会を設けたり、ふれあい面談などを行ったりして、生徒理解に努め、互いを認め合えるよう心がけられている。 授業の際に、ペア学習やグループ学習を取り入れ、安心して発言できる雰囲気をつくり出している。 先生方一人一人の高い意識を感じる。また、職員室での情報交換も多いので、一人で指導ではなく、丸中として組織的に指導にあたれていると感じる。 <p>○交通安全指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方と連携して、登校時の交通安全指導を行っているが、下校時は不十分である。 <p>○ネット指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットトラブルは、年々注意が必要になってきていると感じる。携帯をもっている生徒も多い。 情報モラル教育や、ネットモラルに関する指導がまだ不足している。危険性も、生徒たちに実感できるようなものがまだまだ必要。 <p>○全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員間でのルールの共通認識を確認していく必要がある。共通指導していくために。 ネットの利用方法や交通安全のどの生徒のモラルの低下が心配。なぜ、守らなければならないのか、目的や意図を伝え続ける必要がある。 2学期にある行事を通して、豊かな人間性、よりよい人間関係、親和的な学級など、生徒の成長が見られるよう指導していく。 	<p>○より良い人間関係、親和的な学級づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律を作れるように、普段から人間関係を構築していく。 学校行事を通して、互いを認め合える学級づくりに尽力していたと感じる。 プラスの声かけが増え、生徒たちの表情が明るくなってきている。 行事や学習を通して、生徒同士、また生徒と教員とのつながりを深められていると感じている。 <p>○交通安全指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校時、特に自転車はどうしても並列やヘルメット未着用などの中で、保護者・地域との連携が必要だと感じる。 完全下校時間を守らせることができていない。冬場は暗くなるのがかなり早いため、心配である。 <p>○ネット指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットの指導に対して、学校での指導と家庭での指導の線引きが今後の課題のように感じる。 ネットの危険性に関して、保護者の理解があまり感じられない。家庭でのルールづくりもされていない、または守れていないように感じる。 <p>○全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校生徒の苦手なところの傾向として、朝学習開始時間を守ること、人との関係を縮めること、見通しをもって行動することが考えられる。教員側の仕掛けから、褒めることによって、集団としての成長をはかっていきたい。
道徳教育	<p><自主・自律の精神、互いの考えを尊重し、思いやる心を育む></p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの取り組みを土台とし、互いに聴き合う授業を目指す。 自己を振り返り、向き合うことを通して、自らを律する精神を高める。 →毎時間の授業・学期末に行う振り返りを充実させる。 「丸中トーク」を通して、多面的・多角的な捉え方や考え方を体感しながら、自分とは異なる捉え方、考え方を尊重する心、思いやる心を育てる。 →「丸中トーク」の効果的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「丸中トーク」を全校、全教員が意識すべき。どんなものなのか、どうしたらよいのかを考え、授業づくりをしていく必要がある。 親和的な学校づくりを土台とした、丸中トークが充実してきた。 導入や発問を工夫し、互いを受け容れるための授業を行っている。 活発に意見交流していなくとも、各自で深く考える様子は見られる。自己の変容について記述している生徒も増えてきた。 手を挙げての発言は少ない実態も見られるが、考えを深めて、広げていける授業展開になるよう工夫したい。 振り返りの時間を確保することで、充実した振り返りを記述する生徒も多く見られる。 自分自身と向き合い、もった考えを周りや学級全体と共有する形が定着している。 意見を考えたり、言い合ったりする活動に楽しんで取り組んでいる生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか意見を発表できない学級もあるので、机間巡視等を活用した意図的指名により、生徒の意見や考えを広げる工夫をする。 大学ノートに書かせることで、意見を出すよりまとめようとする意識が生まれている様子もある。道徳ノートを教科書付属のものにしてはどうか。 →教科書付属の道徳ノートにすると、発問が固定化されてしまうデメリットもある。年度当初に道徳科担当を中心に検討が必要。 今までの道徳の取組や、つくった授業が残っていくような取組があっても良いと思う。 忙しい中ではあるが、ねらいに迫れる授業づくり、発問の工夫を全教員が意識すべきである。 →時間割上厳しい先生もおられるが、学年の職員でローテーション道徳を組み、多くの先生が道徳の授業に関わることも、道徳心を育むことにつながるのではないかと。
GIGA	<p><GIGAスクールの充実を目指し、ICTスキル向上を進める></p> <ul style="list-style-type: none"> 若手の実践を校内全体に広げる機会を持つ。 ICTが苦手な教員に対し、個別に端末の操作方法を教える機会を適宜設ける。 総合的な探究の時間を基軸に共通実践を図り、各教科に広げる。（発表ノート、Powerpoint、Wordなど） 生徒アンケートや保護者アンケートで、ICTを用いた方法を活用する。（Microsoft Formsなど） オンライン授業が実施できる環境づくりに努める。（Microsoft Teamsなど） 基礎学力の定着を目指し、Qubenaを全学年で効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に学習用端末の操作方法と学習する時間を確保することが難しいため、小中連携を行い、9年間でICTの活用方法の方針を提示する。 様々な部分で制限や環境、壁があり、なかなか浸透に至っていないが、各学年・各教科・各アンケートにおいてFormsによる活用を積極的に行おうとしている。しかし生徒に「効果的」に活用したり、授業力を向上させたりすることには至っていない。 個人が主体的に活用しているため、スキルの個人差が大きい。 Qubenaは朝学習の計画が立てられていたので、計画的に取り組んでいる。 パワーポイントやワードなど生徒たちは上手に活用している。調べたことをパワーポイントを使って発表する機会を設定できている。しかし各学年や小学校ごとでICT活用のスキルに差がある。 学習用端末を用いたアンケートの解答やQubenaの取組はスムーズにできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員や生徒のICT利用率や意識は高まっている。しかしそれに伴いモニターの不足や生徒のモラル教育の必要性、教員のスキル向上が課題であると実感した。 クラスや学年によりICT活用（管理）の差があるため、来年度当初に教員の共通理解を図りたい。（持ち帰り時の留意点・タッチペンの活用、持ち運びのカバンなど） 来年度以降は、これまで以上の『効果的な』タブレットの使い方を意識し、授業を展開できるように校内研修の場を設けていきたい。 総合の時間を中心にPowerPointやWordの使い方にも慣れてきた。ただし、見る人に伝わりやすいデザインにしたり、情報を取捨選択したりするスキルは不十分。アニメーションなども好きなものを好きなだけつけられる生徒が多い。 GIGAとして、作業やタブレット使用、校内研修などの年間計画を設定し、4月当初から1年にわたって、計画的にICT利用（管理）ができるようになると良い。
人材育成	<p><若手教員の指導力の向上></p> <p>学校の日常的な教育活動を基盤として、若手教員の指導力向上を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修と教科部会を連動させ、定期的に設定することで質的向上を図る。 若プロなど、日常的な研修体制を整え、学校全体でOJTに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修と教科部会を定期的に設けることで、連携を取りながら、教材研究や学校研究に取り組めており、共通理解を図ることができている。 夏休みなどの長期休業中を利用して、計画的に若プロを行っている。 校内研修に積極的に参加することで、指導力の向上を図りたい。 日常の中で、若手教員が先輩教員から学んだり、若手教員からベテラン教員が学んだりする場面も見られ、双方向での学びが見られる。 互いに授業を見合う取り組みが行えていないのが現状である中で、校内研修で学習端末を用いた公開授業を1学期に行うことができた。2学期以降は授業を予め撮影し、冬休みなどにその映像をもとに授業交流や指導法を学び合う場面を設けることを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修と教科部会を定期的に設けることで、若手教員の指導力の向上に努めることができた。 夏休みや冬休みなどの長期休業中を利用して、計画的に若プロや校内研修を行うことができた。 日常の中で、若手教員が主体性を持って先輩教員から学んだり、授業を見たりする場面が見られた。 互いに授業を見合う取り組みが行えていないのが現状である。校内研修で学習端末を用いた公開授業を1学期に行うことができた。一方で、2学期以降に授業を撮影した映像をもとに授業交流や指導法を学びあう場面を設ける研修を設定することができなかった（授業者の選定や時期的な問題があった）。来年度以降、校内研修の計画にしっかりと位置づけていく必要がある。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 多くの評価項目があるが、それぞれに頑張っている様子が感じられる。学校の実情を踏まえて、より良く改善していくことが望まれる。 不登校生徒が多くなってきているようであるが、将来的に社会的自立ができるように、支援していくことが重要となる。 働き方改革については、効率化や業務改善が必要であり、ICTの活用や校務システムの導入、人材を確保することなども重要である。良い仕事をするためには、休みも必要。一般企業で言えば、継ぎたくなくなるような会社であるように、教師の仕事も継ぎたくなくなるような環境にしていくことが大切である。ただし、「働き方改革」を過度に言いつぎても良くない。時間でしか物事を見ず、やったことを見ないのはいかかなものか。楽しいと思って業務ができるよう、うまくバランスを取ることが大切である。 子どもたちに夢や目標をもたせる環境づくりが大切である。外部人材を活用した授業づくりなど、工夫しながら夢や目標をもたせる活動を進めて欲しい。 部活動の地域移行については、今後もどのように進んでいくかはわからないが、平日と休日の部活動について、学校と地域が連携しながら取り組んでいくことが求められる。
---------	--